

第 54 回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議 議事概要

○と き：令和 3 年 7 月 7 日（水曜日）11 時 55 分から 12 時 50 分まで

○ところ：大阪府新別館南館 8 階 大研修室

○出席者：吉村知事・田中副知事・山口副知事・海老原副知事・危機管理監・政策企画部長・報道監・総務部長・財務部長・福祉部長・健康医療部長・ワクチン接種推進監・商工労働部長・教育長・府警本部警備部長・大阪市健康局首席医務監

【会議資料】

会議次第

資料 1－1 現在の感染状況について

資料 1－2 現在の療養状況について

資料 1－3 感染状況と医療提供体制の状況について

資料 1－4 滞在人口の推移

資料 1－5 営業時間短縮要請の実効性確保に向けた取組み

資料 1－6 感染防止認証ゴールドステッカー及び飲食店見回りについて

資料 2－1 まん延防止等重点措置を実施すべき期間の延長に関する要請

資料 2－2 専門家のご意見

資料 3－1 修正「大阪モデル」について

資料 3－2 専門家のご意見

【知事】

- ・皆さんお疲れ様です。
- ・現在、大阪府は、まん延防止等重点措置の地域に指定をされています。
- ・7月11日以降どうしていくのかということについて、最終的には当然国で判断されるということになりますが、大阪府として、どう判断していくのか、この会議で最終決定したいと思います。
- ・現在の感染状況ですけれども、これは府民の皆さん、事業者の皆さんのご協力で、大きな感染の山自体は、ぐっと抑えられている状態にはなっていると思います。
- ・ただ、現在の様々な状況を分析しますと、明らかに感染再拡大の兆候は見られるというのが、現状です。
- ・新規感染者数についても、前週比で増えている状況です。
- ・また、20代・30代の若い世代の新規感染者数が増えると、その後、大きな波になりやすいという見張り番指標を作っていますが、現状、20代・30代の方の新規陽性者数は、1.2倍から1.3倍の範囲で増えているという状況です。
- ・リバウンドしやすい環境というのは、整っている。
- ・そして、感染再拡大の兆候が見られると思っています。
- ・また、非常に重要な視点ですが、人流の状況について、3月と同じくらいの人出になっていて、人出が増えているという状況です。

- ・令和3年4月のまん延防止等重点措置前の水準に戻りつつあるという状況。
- ・人流が増えると、どうしても感染者数が増える傾向にあるということは、ほぼ間違いない状況ですけれども、現在そういう状況になっている。
- ・昨年を振り返ると、7月下旬に第二波が到来しました。
- ・今後、夏休みの時期に入り、人出もさらに増える状況です。
- ・そして、感染力の強いデルタ株が、すでに大阪で市中感染が見られている。
- ・株の置き換えが起きやすいという状況でもあります。
- ・今の大阪の感染状況、日々の感染者数は大きな数字にはなっていませんが、明らかに感染再拡大の兆候が見られる。
- ・リバウンドする率が非常に高い条件が整っている、非常に警戒しなければならないというのが一点、もう一点がワクチンの接種状況です。
- ・あと3週間、7月末で、おおむね高齢者のワクチン接種の2回目が完了するという状況です。
- ・何とか、高齢者の皆さんにワクチンが行き届くまでの間に、大きな波を防ぐということが、非常に重要だと思っています。
- ・そういった観点からも、これから3週間から1ヶ月、7月いっぱい、高齢者の皆さんのワクチン接種がおおむね完了するまで、大きな波を起こさせない努力をするということが非常に重要ではないかと思っています。
- ・つまり、今の大阪の感染状況、感染再拡大の兆候、それが明らかに見受けられること。
- ・また、7月いっぱい高齢者の皆さんの2回目のワクチン接種がほぼ終了するというのを併せて考えると、まん延防止等重点措置の延長を要請すべきだと思っています。
- ・このあと、感染者の推移、大阪市内・市外の状況、様々な感染の状況等含めて分析した上で、最終的に本会議で決定したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

※資料1-1に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-2に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-3に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-4に基づいて、危機管理監より説明。

※資料1-5に基づいて、危機管理監より説明。

※資料1-6に基づいて、危機管理監より説明。

※資料2-1に基づいて、危機管理監より説明。

※資料2-2に基づいて、健康医療部長より説明。

【田中副知事】

- ・直近のデータを見ますと、まん延防止等重点措置の延長を国に要請すべきだと思います。
- ・その上で一つお願いですが、国に要請すると同時に、府としてやるべきことの一つにゴールドステッカー、すなわち飲食店への感染防止対策がある。
- ・先ほどの資料でも説明がありましたけれども、結果としての認証数がどれぐらいかということのももちろん大事ですが、プロセス、いわゆる審査・認証する手続きを通じて、より感染対策を強化していくよう

をお願いすることが非常に大事だと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。

【危機管理監】

- ・了解いたしました。

【山口副知事】

- ・足元で非常に危機感がある状態だと思います。
- ・世代に責任があるわけじゃないですが、やはり若年層、若い世代に気をつけてもらうことが非常に重要になってくると思います。
- ・まだワクチン接種が若年層まで行き渡ってないですが、いろんなアンケートを見ると高齢者に比べて接種希望が低いのではないかと、これから夏休みになって、どういう生活を送ってもらうのかというところは対策を講じていく上で重要だと思いますので、そのメッセージというか、しっかりと打ち出せるように検討をお願いしたいと思います。
- ・特に、ワクチン接種について、若年層に対してどういう取組みがあるのか考えがあれば教えていただきたい。

【健康医療部長】

- ・20代・30代の見張り番指標が間もなく探知になるのではないかと考えておりますので、これまで総合的に大学等にお願いしておりましたが、SNS等で感染対策あるいはワクチンに関する情報周知をお願いできる素材については、常に準備しておりますので、大学や専門学校、経済界を通じ、即座に周知したいと考えております。

【山口副知事】

- ・是非お願いします。
- ・特に、今年の夏も、若者から火がついて波が起こったと記憶しておりますので、やはり一人一人の行動について、感染対策ということも含めてやっていただくようお願いしてください。

【海老原副知事】

- ・健康医療部長から、資料1-1のp34で施設関連におけるクラスターが顕著に減少している、これを分析していきたいとお話を伺いました。
- ・施設に入っている方は基礎疾患を有している方が多いと思われまますので、ワクチンが、高齢者、特に基礎疾患のある方についても有効ということの調査なのかなと考えておまして、またその辺はよく教えていただければと思います。
- ・まん延防止等重点措置の延長は必要と改めて思ったわけですが、高齢者へのワクチン接種が健康な方のみならず、基礎疾患を有する方についても有効なのであれば、やはり7月中の警戒を強化するという点については、非常に意味があると感じました。
- ・そういう理解でよいかどうか健康医療部長の見解を教えていただければと思います。

【健康医療部長】

- ・ p36 で見ていただいたとおり、これまで常に 4 割から 5 割を占めていた高齢者施設・障がい者施設のクラスター施設数、陽性者数とも、今回非常に減っているというのは大変明るい材料ではないかと思っています。
- ・今起こっているクラスター、それぞれについてワクチン接種が済んでいた施設かどうかというデータも集めております。
- ・福祉部でも施設の接種の進捗状況調査もしていただいております、これらと併せて関係性を引き続き分析したいと思っております。
- ・また、高齢者へのワクチン接種が進むほど、高齢者の重症化率がターム（期間）ごとに減っていくはずという想定をしておりますので、そのあたりもしっかりデータを観察していきたいと思っております。

【知事】

- ・ワクチンについて、大阪市健康局に高齢者の皆さんに対する 2 回目のワクチン接種の状況、大阪市の見込みをお聞きしたい。
- ・大阪市は人口も多いですし、感染の中心になりやすいエリアでもあります。
- ・VRS と実際の接種との乖離がある、事務の乖離があるということは十分理解しているので、VRS の対応は 7 月中旬から早めていくというのは聞いています。
- ・それはあくまでも登録上の問題なので、そこはそれで進めていくとして、実態上の状況として、高齢者の 2 回目のワクチン接種は概ね 7 月末で完了するという目処が立っているということでのいいのか、高齢者のワクチン接種の状況について教えてもらえますか。

【大阪市健康局長首席医務監】

- ・高齢者のワクチン接種の進み具合ですが、5 月 24 日から 7 週間に分けて、段階的に 65 歳以上の高齢者の方に接種の勧奨を行ってまいりました。
- ・1 週間ごとに区の集団接種会場の予約などを入れていただけてきたわけですが、第 7 週は最後、高齢者の取りこぼしがないようにという形でさせていただきました。
- ・第 7 週は 7 月の最初の週に当たりますけれども、第 7 週までの予約状況を見ておられますと、個別で打っていただいている方と合わせ、予約がすぐには埋まらないという状況までになりましたので、希望されている方は手を挙げていただいていたと思っています。
- ・また、我々が設置しております会場以外にも、大規模接種会場等がございまして、こちらの方は高齢者以外の方にも枠を広げていただくということもありましたので、7 月末までに、高齢者、希望される方につきましては、ほぼ 2 回は打っていただけるのかなと思っています。
- ・今、ちょうどワクチン供給の問題がございまして、これから先、1 回目を打っていただく方につきましては少し待っていただく形になってはいますが、次が 2 回目という方につきましては、会場も確保して進めていくと考えているところです。

【知事】

- ・高齢者の皆さんへのワクチン接種が 7 月末で概ね終了するということですから、この間はより警戒す

べきで、感染の急拡大を起こさせないということは非常に重要だと思っています。

- ・一方で、急拡大のリスクが十分にあるというのが現実だと思います。
- ・朝野座長がおっしゃる認識と僕の認識がほぼ一致しているところとして、もうすでに増加のトレンドには入っていると思います。
- ・大阪の感染状況、日々の状況は100名ちょっと超えるというような状況で、数だけ見ればそれほど多くないという印象にはなるんですけども、トレンドとしては明らかに増加のトレンドに入っていると思います。
- ・このまま増加していく可能性が高いと思います。
- ・これからめざすべきところとしては、増加のスピードをできるだけ抑えていくということが重要だと思っています。
- ・人流についても、3月とほぼ同じぐらいの状況になってきていますし、デルタ株にちょうど置き換わりが始まっている。
- ・株の置き換わりの時は急拡大しやすい、また、第四波で我々は現実を経験したわけです。
- ・大阪の大都市部、そして、株の置き換わりが進めば、2週間で1,000人に達するというのがまさに現実です。
- ・その中で、感染再拡大の兆候が明らかに見てとれる。
- ・この現状を見たときに、併せて、ワクチンの接種状況を見たときに、7月いっぱい高齢者の2回目のワクチン接種が終わるまではできるだけ急拡大をさせない、それが非常に重要だと思っています。
- ・集中して警戒すべき期間がまさに今だと思っています。
- ・ですので、国に対してまん延防止等重点措置の延長を要請したいと思います。

※資料3-1に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料3-2に基づいて、健康医療部長より説明。

【知事】

- ・専門家の意見に関して確認したいのですが、(非常事態の目安が重症病床使用率)60%というのは、250床に対する60%だから、もう少し下げるべきじゃないかというような意見も出てくるのではないかと思います。
- ・390床をベースに病床数の計算をすれば、このパーセントも下がってくると思うんですけど、あえて250床の60%にする必要があるのか、少しわかりづらくなるのではないか。
- ・390床も今積み上げたもので、現状でさらに500床をめざそうとしている。
- ・500床はかなり高い目標ですが、厚労省の言うHCU等を入れない、実質の重症病床ですから、それが現実、我々が把握しているところでは、390床になっている。
- ・そのパーセントに合わせれば、60%よりは少ないパーセントになる。
- ・評価の話ではあるが、ここはしっかり認識しておかないと分母が違っていると見る側からすれば、少しわかりにくいかと思いますが、どうですか。

【健康医療部長】

- ・たしかに、専門家のご意見の中で、分母についての認識が共有できているかどうかという点はありません。
- ・ただ、茂松委員はおそらく250床をベースにお考えじゃないかなと思いますし、もっと低い段階で、アラートを鳴らすべきだというご意見だと思います。
- ・倭委員も、分母については感染スピードを踏まえた上でのご意見だと思います。
- ・ただ、知事がおっしゃるように、現在250床よりも多くの病床というのは一般医療を制限していただいた上で、運用可能病床としては390床程度もしくはそれ以上あると思います。
- ・例えば、分母を390床にした上で低い水準でというときに、府民とのリスクコミュニケーションとして、「(病床が)それだけある」と(伝わってしまう)。
- ・また、250床の60%と言いますと120床ですが、390床に対しますと、30%程度の病床になるので、30%という病床使用率で、赤信号をご納得いただけるかどうか。
- ・府民に対してご納得いただけるかという点、なかなかリスクコミュニケーションとして難しいかと思っています。
- ・本来、通常医療を制限せずに確保できる病床は250床であるという前提で、大阪モデルの数字としては、分母を250床で設定させていただきたいと考えております。
- ・ただ、知事のおっしゃるとおり、最大500床をめざしておりますので、その500床に対する使用率というものも、ホームページ等での発表を通じて共有できるようにさせていただきます。

【知事】

- ・正確な情報公開だけ、きっちりやってもらいたいと思います。
- ・もちろん、コミュニケーションの問題があるわけですが、これは逆を言うと、赤信号をつけるというのはそれだけ重たいことでもあります。
- ・府民の皆さんや事業者の皆さんの生活、仕事を制限することにもつながりかねない、ものすごく重たいこと。
- ・我々や医療界の役割として、病床、医療のキャパシティを増やしてほしいという府民からの意見もあります。
- ・ここは諸外国とも比較して議論される場所ですが、「なんでこんなに医療のキャパシティが少ないんですか」と。
- ・医療キャパシティは増やせないのかという議論は常にある中でも、医療界に本当に協力してもらって、今は390床の重症病床で、これは全国で一番大きい状況です。
- ・ここまで病床が確保できていることについては医療の皆さんに感謝です。
- ・250床をベースにした60%というのは、僕はこれでいいと思いますが、いろんな数字もあるということとはきちんと公開し、府民の皆さんにわかるようにしてもらいたいと思います。
- ・それから、感染状況の数のところですが、(p4) ※印の「ワクチンの接種状況を踏まえ、適宜見直しを検討する」という点は、今後も検討していかなければならないことだと思っています。
- ・ワクチンの接種が進み、効果が十分に出れば、ワクチンを打たない場合に比べると、重症者あるいはお亡くなりになる方が、今よりはずいぶん少なくなるはずですよ。
- ・絶対数の陽性者が増えれば、その分、必ず何パーセントかは重症化するので、絶対数が増えれば増え

るほど、病床はひっ迫するわけですが、逆に重症化するリスクが下がれば下がるほど、絶対数が今の基準である必要があるのかという問題も出てくると思います。

- ・今後、ワクチンの接種が進むと、陽性者が増えても重症者がなかなか出てこない、病床もひっ迫しないということであれば、この「黄色：(感染状況) 189 人/日」、「赤：315 人/日」、これが本当に、大阪の 880 万人都市として正しいのかというのは、常に検討していく必要があると思います。
- ・ここは、ワクチンの進捗等全国的にデータが出てくると思いますが、病床のひっ迫等を常に考えながら、流動的に考えていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【政策企画部長】

- ・見直し案 (p4) の「警戒の目安」と「非常事態の目安」で、「上記いずれかが目安に達した場合」となっているのですが、そうした場合に、今、知事が仰っていたように、まず感染が増えた後に重症病床数が増えてくるとい形になるので、国の目安でいいと思いますと、病床数も含めての判断となっており、その辺の齟齬がだいぶ出てくると思うんですけど、できれば、「いずれか三つのうちの二つぐらいの目安」というのがどうかという案としての話ですが、そういう考え方はできないものかどうか。

【健康医療部長】

- ・第四波の経験で、どうしても病床が遅れて増えてきます。
- ・アルファ株、デルタ株、感染スピードがこれまでの第三波の経験よりも、先ほど資料 1-1 でお示しましたが、圧倒的に早い。
- ・病床の増加だけを見て、そこで判断をして、2 週間後の感染対策の効果が病床に反映するまでに、もう 1 週間かかるということで、病床で判断する場合は 3 週間以上のタイムラグが生じます。
- ・どうしても、ここは感染者のアラートが鳴れば、対策を講じる必要があると考えています。
- ・それは朝野先生がおっしゃった、分科会指標だと全体が達成する、あるいは国の分科会の諮問会議での議論、このタイムラグを府が待つ間にも、府独自の対策を打つべきであるというスタンスに立っています。
- ・今の重症化率は 3% で、1,000 人の感染者に対しまして、30 人の重症患者が発生するというだいたいの想定ですが、これはワクチン接種が進んで重症化率が下がれば、1,000 人の感染患者が出て、もし 1.5% に下がれば、重症患者は半分になるということが想定されますので、重症化率の変動に応じて、あるいは入院が必要な患者さんの発生状況に応じて、この①の考え方 (直近 1 週間の人口 10 万人あたり新規陽性者数) あるいはその①の指標は必要かどうかにつきまして、適宜見直してまいりたいと考えています。

以上